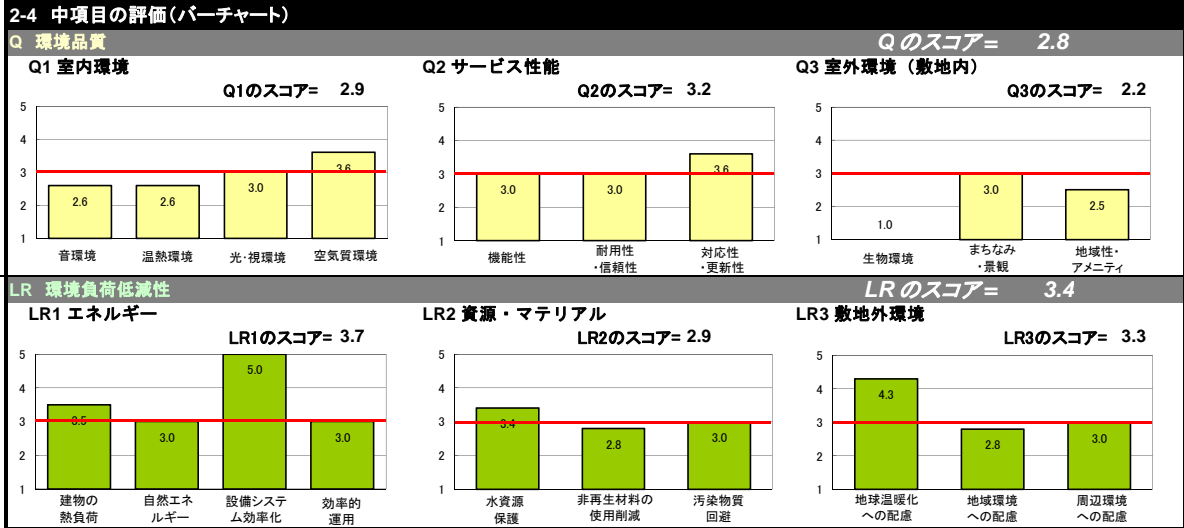
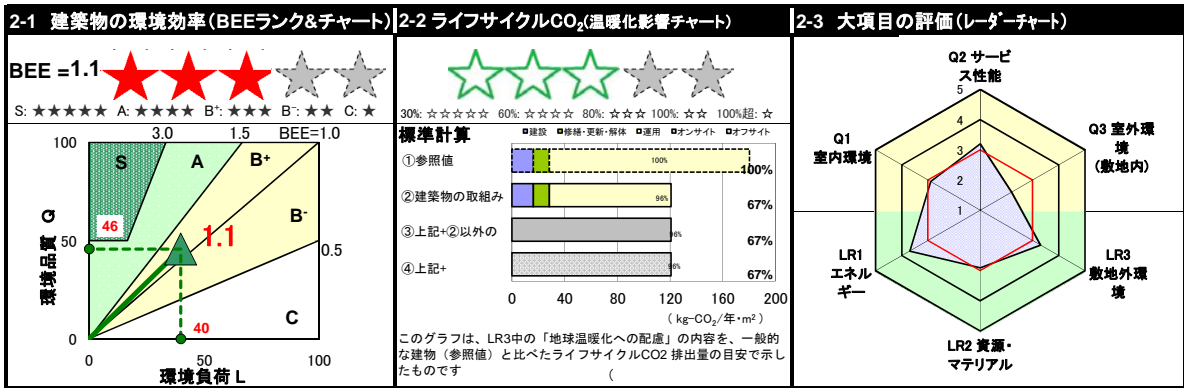


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-あいち2011年度評価Ver.2 (PBUE対象) ■ 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpl&bel) v.1.5\_aichi

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)コーナン清須店新築工事	階数	地上2階
建設地	清須市春日立1番	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定無し	平均居住人員	7,200 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,290 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年12月1日
敷地面積	14,433.67 m <sup>2</sup>	作成者	三誠株式会社 堀 桜子
建築面積	8,266.63 m <sup>2</sup>	確認日	2014年12月1日
延床面積	8,602.90 m <sup>2</sup>	確認者	杉浦 文彦



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>12.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	12.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	12.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver  
 【(仮称)コーナン清須店新築工事】

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版  
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>						2.6	0.15	-
1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-
2 設備騒音対策						3.0	1.00	-
<b>1.2 遮音</b>						3.0	0.40	-
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	-
2 界壁遮音性能						-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-
<b>1.3 吸音</b>						1.0	0.20	-
<b>2 温熱環境</b>						2.6	0.35	-
<b>2.1 室温制御</b>						3.0	0.50	-
1 室温						3.0	0.50	-
2 設備変動・過往制御性						-	-	-
3 外皮性能						3.0	0.17	-
4 ゾーン別制御性						3.0	0.33	-
5 温度・湿度制御						-	-	-
6 個別制御						-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-
8 監視システム						-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>						1.0	0.20	-
<b>2.3 空調方式</b>						3.0	0.30	-
<b>3 光・視環境</b>						3.0	0.25	-
<b>3.1 昼光利用</b>						3.0	0.50	-
1 昼光率						-	-	-
2 方位別開口						-	-	-
3 昼光利用設備						3.0	1.00	-
<b>3.2 グレア対策</b>						-	-	-
1 照明器具のグレア						-	-	-
2 昼光制御						-	-	-
3 映り込み対策						-	-	-
<b>3.3 照度</b>						-	-	-
<b>3.4 照明制御</b>						3.0	0.50	-
<b>4 空気環境</b>						3.6	0.25	-
<b>4.1 発生源対策</b>						4.0	0.50	-
1 化学汚染物質				内装材は、全面的にF☆☆☆☆を採用している		4.0	1.00	-
2 アスベスト対策						-	-	-
3 ダニ・カビ等						-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-
<b>4.2 換気</b>						3.5	0.30	-
1 換気量						3.0	0.50	-
2 自然換気性能						-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				空気取り入れ口は、各種排気口と6m以上離れて設置されている		4.0	0.50	-
4 給気計画						-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>						3.0	0.20	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50	-
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-
<b>1 機能性</b>						3.0	0.40	-
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						3.0	0.40	-
1 広さ・収納性						-	-	-
2 高度情報通信設備対応						-	-	-
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>						3.6	0.30	-
1 広さ感・景観				売場の天井高は3.6m以上である		5.0	0.33	-
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33	-
3 内装計画						3.0	0.33	-
<b>1.3 維持管理</b>						2.5	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-
3 衛生管理業務						-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						3.0	0.31	-
<b>2.1 耐震・免震</b>						3.0	0.48	-
1 耐震性						3.0	0.80	-
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						3.0	0.33	-
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水管(HIVP)、給湯管(SUS)、排水管(VP)を使用、E不使用		5.0	0.15	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-

2.4 信頼性					3.2	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
			②	通信手段の多様化を図る、電源設備・精密機械の地下設置無し					
3 対応性・更新性					3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり					5.0	0.31			
1	階高のゆとり			階高3.9m以上である	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1未満である	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.2
1 生物環境の保全と創出		●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			3.7
1 建物の熱負荷抑制				△PAL=9.76%、BPI=0.938	3.5	0.30			3.5
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				ERR換算値=44%	5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					5.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			2.9
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1	節水			自動水栓に加え、節水型便器を採用している	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.63			2.8
2.1	材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		-	1.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体+軽鉄+仕上材を採用している	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2=67%	4.3	0.33			4.3
2 地域環境への配慮					2.8	0.33			2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音	●			3.0	0.50			
2	振動	●			3.0	0.50			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

(仮称)コーナン清須店新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.5\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)コーナン清須店新築

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 LED照明を採用し、節電に努めている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 内装材は、全面的にF☆☆☆☆を採用している。空気取り入れ口は、各種排気口と6m以上離れて設置されている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 売場の天井高は3.6m以上である。給水管(HVP)、給湯管(SUS)、排水管(VP)を使用、E不使用している。通信手段の多様化を図っている。電源設備・精密機械の地下設置を避けている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 植栽により、良好な景観を形成している。敷地周囲の境界壁は見通しの良いネットフェンスとし、防犯性・防災性に配慮している。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ∠PAL=9.76%、BPI=0.938である。 ERR換算値=44%である。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自動水栓に加え、節水型便器を採用している。躯体+軽鉄+仕上材を採用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物利用者のための適切な量の自転車置場・駐車スペースの確保をしている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。